



日本医科大学付属病院 病理診断科

日本腎病理協会病理研修フェローシップ

腎病理医として経験豊かなスタッフが責任をもって指導いたします。



代表者：大橋 隆治

- ・ 日本医大の腎生検症例（年間約300症例）を実際に診断していただき、腎病理の基礎から応用まで（光顕、蛍光抗体法、電顕）を学びます。
- ・ 臨床科（腎臓内科）との合同カンファレンス（ハイブリッド方式）を通じて臨床的な知識も習得できます。
- ・ 興味がある先生には、学会発表や論文執筆も指導します。

獨協医科大学埼玉医療センター 病理診断科

担当 下山田 博明

腎病理診断研修フェローシップについて

年間約100件の腎生検と約30件腎移植が行われており、上田善彦先生のご指導のもと丁寧な病理診断をこころがけています。IFと電顕も含めて診断しています。

フェローシップでは毎週火曜日午後から腎生検症例について診断していただき、担当の病理医(下山田・上田)と意見交換しつつ診断報告書を作成していきます。

第4火曜日(17:00～)には特殊な症例について腎臓内科とカンファレンスを設けており、最新の知見も踏まえた積極的な意見交換をしています。

腎病理の経験も積んでおきたいと思う若手病理医のお手伝いができれば幸いです。



神戸市市立医療センター中央市民病院

病理診断科

代表者氏名：原 重雄



□ 毎週金曜日の研修となります

□ 2025年の腎生検件数

腎臓内科：121件

泌尿器科（移植腎）：27件

腎臓内科症例は、毎週金曜日午後5時半からのカンファレンスで全例提示しています

□ コンサルテーション症例も適宜経験できます

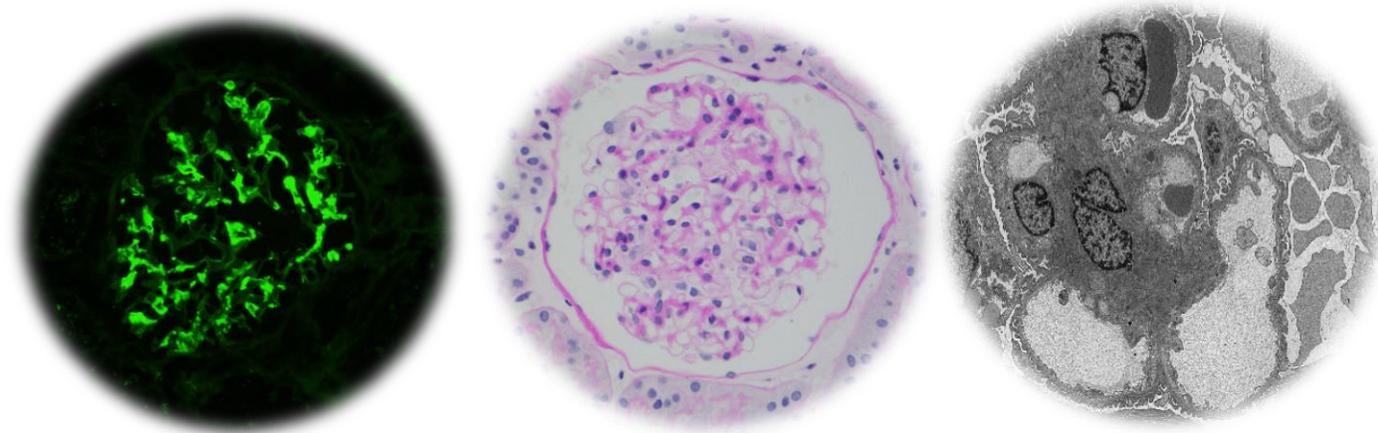
□ メッセージ

診断をつけることにとどまらず、「この所見から何を考えるか」「所見のもつ意味は何か」「この所見がどのように形成されるか」に重点を置いて共に考える指導をしています。

産業医科大学 第2病理学・病理診断科

代表者：中山 敏幸、片瀨 瑛介

- 大学病院および九州圏内の約40施設の腎生検診断をしています
- 学外 650例/年
学内 150-160例/年
- 症例 小児～高齢者
一次性・二次性糸球体疾患、尿細管間質疾患、
血管疾患、遺伝性腎疾患など多種多様
- カンファレンスなど
教室内カンファレンス (週1回)
他大学・他施設の先生とZOOMミーティング
福岡小児腎病理カンファレンス (1回/2か月)
学内カンファレンス(1回/2か月)
- 研修で学べること
光顕・蛍光抗体法・電顕診断
蛍光検体作成・撮影
電顕撮影 (検体作成の見学なども可)
可能な限りご希望に沿った研修を行います



腎病理に興味のある方はいつでも大歓迎です、腎病理について一緒に学びましょう



Cedars
Sinai

Cedars-Sinai Medical Center Los Angeles, CA, USA

- ・腎生検年間4,000例、過去30年間75,000例、腎病理医6人
85%自己腎、15%移植腎
10%院内、90%院外
- ・腎移植手術年間約200例、腎移植外来患者約3,000人

代表者氏名：山下倫史
Michifumi.Yamashita@csmc.edu



アメリカ西海岸最大の症例
数を有する当院で、典型的
な症例から稀な症例まで、
最前線の腎病理が学べます。
(参考論文 PMID: 41323720)